

大陰唇縮小術とは

大陰唇周辺をメスで切開し、余分な組織を切除・縫合などを行いご希望のデザインに整える手術です。本来の機能を維持しながら形を整えます。

大陰唇縮小にあたっての注意点、ケアについて

- ・術後は数日出血があります。1週間は激しい運動や入浴、飲酒を控えていただき、安静に過ごしてください。
 - ・術後は細い糸で縫合しますので傷口や周辺が下着で擦れることで痛みを伴う場合もあります。
 - ・手術日から2週間後に来院していただき、経過観察と残糸を行います。
 - ・術後は感染のリスクを避けるため、当日より、ぬるめのシャワーで創部を優しく流します。また、抜糸まではトイレの際には毎回ウォシュレットを使用し清潔を保つようにしてください。
 - ・術後の性交渉、または股間がすれるような動作・服装・運動は1ヶ月以上経ってから、十分に注意の上行うようにしてください。違和感があるうちは避けてください。
- ※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
- ※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

大陰唇縮小で生じる可能性のあるリスクについて

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の手術部位の形、皮膚の厚み、たるみ具合などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。時間経過とともに腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【血腫】

切開した箇所血の塊ができる場合があります。自然に吸収されますが、ごくまれに出てくることもあります。

【傷跡】

皮膚をメスで切開する手術のため、多少の傷跡が残ります。体質により傷跡が目立つ方と目立たない方がいます。

大陰唇縮小術をお受けいただけない方

妊娠中の方、妊娠している可能性がある方、親権者の同意がない未成年の方、手術部位に怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーをお持ちの方、その他医師が不可と判断した場合は手術を受けられません。